

令和 2 年 6 月 12 日現在

機関番号：33920

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K12323

研究課題名(和文) 多文化に対応する子どもと親のための健康教育ハンドブックの開発

研究課題名(英文) Development of a Multicultural Health Education Handbook for Foreign Families

研究代表者

坂本 真理子 (SAKAMOTO, MARIKO)

愛知医科大学・看護学部・教授

研究者番号：70285237

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：日本に住む外国人の親と日本の保健医療従事者のための健康ハンドブック(『外国人のママ・パパと日本の保健医療従事者のための健康ハンドブック』(フィリピン人住民編、ブラジル人住民編)を開発した。  
ハンドブックでは外国人の親が親しみをもてるように、外国人の親が日本での子育てでよく出会う場面を4コマ漫画で示し、日本の母子保健や子育てのサービスが理解できるような解説を行った。また、日本の保健医療従事者にとっても、外国人の親たちの母国の背景や習慣を理解できるような解説を加えた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

わが国では1990年代より急速に増加した外国人住民の対応が必要とされながらも、異なる文化に適合した看護についての研究は遅れをとってきた。本ハンドブックの開発は、日本で子育てを行う外国人の親に対する情報提供だけでなく、日本人の保健医療従事者が異文化背景をもつ親への理解を深めることができる点に意義がある。なお、保健医療分野のみならず、多様な場面での活用も可能である。

研究成果の概要(英文)：We have developed a health handbook; "Health Handbook for foreign families and Health Care Professionals in Japan" (Filipino resident's version and Brazilian resident's version). We developed this handbook to support both foreign parents and healthcare professionals in Japan. In this handbook, we use four-frame cartoons to describe common situations in order to help foreign parents familiarize themselves with child-rearing experiences in Japan and to enhance their interest in Japanese healthcare and child-care services. Each cartoon is accompanied by relevant information about Japanese healthcare systems and services. We have also added information about the foreign parents' cultural backgrounds for Japanese healthcare professionals.

研究分野：地域看護学

キーワード：外国人の親 保健医療従事者 多文化 健康ハンドブック フィリピン ブラジル

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

## 1. 研究開始当初の背景

- (1) 外国人の日本滞在の長期化や定住化傾向が顕著になる中、子育て世代の外国人住民が増加しており、母子保健や子育てに関する情報を確実に提供することは急務となっている。研究代表者が所属する大学が位置する愛知県には、自動車産業を中心とする働き場が多いことから、特に南米からの日系外国人が多く居住し、ブラジル国籍の外国人住民数は日本で1位となっている。また、フィリピン国籍の外国人住民数も多くなっている。愛知県の中で、2012年現在で総人口に占める割合が最も高い市町村では5.92%と日本全体における総人口に占める外国人住民（法務省では「在留外国人」としての統計）の平均1.6%を優に超える市町が存在している。こうした外国人住民の割合が高い市町では乳幼児健康診査や予防接種の問診票のポルトガル語版の活用や乳幼児健康診査や新生児訪問などにポルトガル語の通訳を導入するところもあり(山下, 2012)、外国人住民の受診率の向上に効果を上げている(伊藤, 2004)。また、近年の傾向として、外国人住民の国籍が多様化し、日常の保健医療福祉サービスにおいて多文化背景をもつ外国人住民への対応が迫られる様相を呈してきている。
- (2) 研究代表者らは2012年度より2015年度まで、愛知県内の中で外国人住民の割合が高いA市において、効果的な母子保健・子育て支援における情報提供の在り方を模索する研究を継続してきた。(基盤研究(C) 課題番号24593463) A市で乳幼児をもつ外国人の母親の情報伝達におけるニーズを探るなかで、多くの外国人の母親たちが外国人住民にむけた行政や保育園などへの配慮を認めつつも、日本での母子保健や子育て支援に関する情報提供には課題を感じていることが明らかになった。具体的には外国人の親たちは子どものために日本での母子保健や子育ての情報を得たいと思いつつも、多忙のため、タイムリーにその機会が得られないこと、言語のハンディキャップにより、自らサービスを求める行動には出にくいこと、単に日本語の直訳としての情報提供では外国人住民にとって納得しにくい内容にとどまっていることなどであった(Sakamoto, 2015)。研究代表者らは研究の一環としてA市における市民グループと協働して、外国人の親子が気軽に集うことができる「多文化子育て支援事業」を試行する中で、信頼関係のもとで親が気軽に相談でき、タイムリーに母子保健・子育て支援の情報を得る場の重要性を実感するに至っている。「多文化子育て支援事業」に継続して参加する親たちはお互いに通訳し合ったり、他の外国人の親を事業に誘ったりと、外国人住民の力が発揮される場にもなっている。
- (3) 研究代表者らは「多文化子育て支援事業」の内容の一部として、乳幼児をもつ外国人の親に向けた健康教育を実施する中で、外国人住民のもつ文化や習慣などに留意した上で、日本で滞在するために必要な教育活動を行う必要性を感じるようになった。近年、外国人住民の言語上のハンディキャップへの対応に向けては、外国人住民が活用できる多言語での受付・問診システムの開発(宮部, 2008)や外国語による予防接種の説明や問診票のウェブ上での公開(予防接種リサーチセンター, 2015)などが行われている。しかし、日本人の親子が当たり前で得られるような基礎的な健康情報については、多言語に翻訳され公開されているものはほとんどなく、保健センターの保健師などが日常業務で活用できる媒体は皆無であった。

## 2. 研究の目的

多国籍化した外国人住民の言語上のハンディキャップに対応するだけではなく、外国人住民

のもつ文化や習慣に関する解説を加え、乳幼児をもつ外国人住民との十分なコミュニケーションの媒体となりうる「多文化に対応する子どもと親のための健康教育ハンドブック」を開発する。

### 3. 研究の方法

本研究では以下のプロセスで「多文化に対応する子どもと親のための健康教育ハンドブック」（以下ハンドブック）の開発を進めた。なお、研究期間に確実に成果を上げられるように、ハンドブックを活用する対象を愛知県に多く居住するブラジル人住民及びフィリピン人住民と日本の保健医療従事者に限定した。

#### (1) インタビュー調査の実施・分析

ハンドブックを開発するために必要な基礎情報として、①ブラジル及びフィリピンにおける母子保健に関する文化や習慣に関する情報、②外国人住民が疑問を抱きやすい日本の母子保健情報を収集するため、インタビュー調査を実施した。協力者は、①ブラジルあるいはフィリピンでの看護活動等の経験を持ち、母子保健制度・文化・習慣に詳しい日本人協力者4人及び日本での子育て経験があり、保健医療機関での通訳や支援団体等で活動経験を持つブラジル人・フィリピン人協力者4人である。

インタビュー内容は、日本人協力者に対しては、①協力者の基礎情報（現地での活動の種類、②現地での活動内容、活動年数、年代、資格）、③外国人としてブラジルあるいはフィリピンにおける母子保健制度や文化・習慣について疑問や戸惑いを持ったエピソードとその対処行動、④現地での活動経験から想定する日本で暮らす外国人住民が会う戸惑いについてである。外国人協力者に対しては、①協力者の基礎情報（在日年数、日本での子育て経験、活動経験、年代、資格）、②日本で提供された子育てや母子保健制度、文化・習慣に関する情報などで、外国人住民として疑問や戸惑いを持ったエピソードとその対処行動、③多くの外国人住民が理解しにくいと思われる子育てや母子保健情報についてのエピソード、④日頃受けている母子保健に関する相談内容で気になること、⑤外国人住民としてもっと知りたかった母子保健情報である。

インタビュー調査は愛知医科大学看護学部倫理審査の承認を得た上で、協力者の人権やプライバシーに十分に留意した上で実施した。

#### (2) ハンドブックの開発

- ① インタビュー結果に基づき、日本で子育てを行う外国人の親が遭遇しやすい戸惑いの場面を、ブラジル人住民及びフィリピン人住民それぞれに12場面を抽出した。場面ごとにシナリオを作成し、イラストレーターとの協力により、4コマ漫画で表現した。4コマ漫画には外国人の親が親しみをもてる人物像とし、ブラジル人の親子、フィリピン人の親子、日本人の親子を登場させた。
- ② ハンドブックを a. 国（フィリピン、ブラジル）の紹介、b. 12場面ごとの4コマ漫画、c. 外国人の親のための解説、d. 日本人の保健医療従事者に向けた外国人の親の母国の文化背景や保健医療システムの解説、e. 外国人の親が覚えておくとよい日本語のキーワード集、f. 自治体ごとの相談窓口等が記録できるノートの6項目で構成した。ハンドブックの説明は日本語が不得手な外国人の親にもわかりやすい平易な日本語での表現とし、フリガナを付けた。なお、フィリピン人住民版は英語、ブラジル人住民版はポルトガル語を併記した。
- ③ ハンドブックの内容はフィリピンあるいはブラジルの事情に詳しい研究者・外国人支援者等8人から意見を得て、内容の妥当性を検討したうえで、修正し完成させた。

### 4. 研究成果

#### (1) 外国人の親の戸惑いとその背景

インタビュー調査の結果から、ブラジル人父母の戸惑いとその背景は【言語面でのハンディキャップ】【制度・医療システムの違い】【出産・子育て事情の違い】【子育て情報へのアクセスの問題】、フィリピン人父母の戸惑いとその背景は【言語面でのハンディキャップ】【制度の違い】【子育て事情の違い】【子育て情報へのアクセスの問題】のそれぞれ4カテゴリが抽出された。外国人住民の状況に応じた「言語的サポート」の取り組みは広がっているものの、「父母の母国の制度・文化をふまえた日本での子育て情報の伝達」や「十分かつ正確な子育て情報をタイムリーに伝達する仕組みづくり」については実践が少なく、課題であることが考えられた。

## (2) 日本で子育てを行う外国人の親が遭遇しやすい戸惑いの場面

インタビュー調査の結果より、慣れない環境で、子育てを行う外国人の親が遭遇しやすい戸惑い場面として12場面を抽出した。

- ① ブラジル人住民版：子育て情報の入手、保健センター、日本の医療制度、母子健康手帳、出産、赤ちゃん訪問、粉ミルク、子どもの医療、予防接種、乳幼児健康診査、離乳食、保育園・こども園（12場面）
- ② フィリピン人住民版：子育て情報の入手、保健センター、日本の医療制度、母子健康手帳、パパママクラス、子どもの医療、赤ちゃん訪問、日本の子育てのストレス、予防接種、乳幼児健康診査、離乳食、保育園・こども園（12場面）

## (3) ハンドブックの開発・作成

以下の2種類のハンドブックを開発し、作成した。（第1版・紙媒体）2020年3月30日発行『外国人のママ・パパと日本の保健医療従事者のための健康ハンドブック』（ブラジル住民編）『外国人のママ・パパと日本の保健医療従事者のための健康ハンドブック』（フィリピン住民編）外国人の親と日本の保健医療従事者のコミュニケーションツールとしてハンドブックを活用できるように、以下の点について留意して開発した。

- ① 外国人の親が親しみを感じられるような工夫として、12場面を4コマ漫画で表現した。
- ② 場面を妊娠・出産・育児という経過に従って学ぶことができる順序で配置し、場面ごとに、日本の母子保健や子育て支援について最低限知っておいてほしい情報について解説した。
- ③ 日本の保健医療従事者がブラジル・フィリピンの国の概要、文化、母子保健制度や子育て支援等の仕組みの違いを理解し、多文化対応に活用できる解説を加えた。
- ④ 覚えておくと役立つ日本語のキーワードを精選し掲載するとともに、外国人の親が共住する自治体の相談窓口を記録できるノートを加え、カスタマイズして活用できる工夫を加えた。

## 《引用文献》

伊藤美保、中村安秀、小林敦子(2004)：在日外国人の母子保健における通訳の役割、小児保健研究 63(2)、249-255.

宮部真衣、吉野孝、重野亜久里(2008)：多言語医療受付支援システムM3の開発、医療情報学連合大会論文集、1208-1209.

Sakamoto Mariko et al (2015) : The current state of and challenges faced by dissemination information on maternal and child healthcare among expatriate community, 国際保健医療、Vol.30,No3.

山下 正、松尾 博哉 (2012) :保健師による外国人への母子保健サービス提供の現状と課題-愛知県の市町村に勤務する保健師へのアンケート調査の分析から-、国際保健医療、Vol. 27 No. 4 p. 373-380.

予防接種リサーチセンター(2015) : 外国語版「予防接種と子どもの健康 2015 年度版」、  
<http://www.yoboseshu-rc.com/publics/index/8/>

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 大橋裕子, 坂本真理子, 橋本秀実, 宮武真生子, 水谷聖子,
2. 発表標題 日本で子育てする外国人の戸惑いとその背景
3. 学会等名 第7回日本公衆英紙英看護学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Mariko Sakamoto, Hidemi Hashimoto, Makiko Miyatake, Yuko Ohashi and Seiko Mizutani
2. 発表標題 Development of Multicultural Health Education Handbook for Foreign Families and Healthcare Professionals in Japan
3. 学会等名 23th East Asian Forum of Nursing Scholars (国際学会)
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 坂本真理子	4. 発行年 2018年
2. 出版社 名古屋大学出版社	5. 総ページ数 12
3. 書名 -3 在日外国人母子への支援, 現代の母性看護	

〔産業財産権〕

〔その他〕

監修：坂本真理子，企画・編集・執筆：橋本秀実，大橋裕子，浅野いずみ，坂本真理子，水谷聖子，宮武真生子：『外国人のママ・パパと日本の保健医療従事者のための健康ハンドブック』（ブラジル住民編）（第1版・紙媒体）2020年3月30日発行

監修：坂本真理子，企画・編集・執筆：坂本真理子，宮武真生子，水谷聖子，大橋裕子，浅野いずみ，橋本秀実：『外国人のママ・パパと日本の保健医療従事者のための健康ハンドブック』（フィリピン住民編）（第1版・紙媒体）2020年3月30日発行

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	駒田 いずみ(浅野いずみ)  (ASANO Izumi)  (80643494)	愛知医科大学・看護学部・講師    (33920)	
研究分担者	宮武 真生子  (MIYATAKE Makiko)  (50593711)	中部大学・生命健康科学部・講師    (33910)	
研究分担者	水谷 聖子  (MIZUTANI Seiko)  (80259366)	日本福祉大学・看護学部・教授    (33918)	
研究分担者	橋本 秀実  (HASHIMOTO Hidemi)  (50515781)	同志社女子大学・看護学部・准教授    (34311)	
研究分担者	大橋 裕子  (OHASHI Yuko)  (70352911)	日本福祉大学・看護学部・准教授    (33918)	